

# 性感染症予防と対応



## 1. 性感染症って何のこと？

性感染症（STD・STIと呼ばれることもあります。）とは、性行為によって感染するいろいろな病気のことです。

性感染症は、何度でも感染する可能性があります。また、これに対する有効な予防接種もありません。

性感染症の症状は決して一時的なものだけではありません。失明や不妊症、又、エイズにも感染しやすくなり、ときには子宮頸がんなど、生命の危険にかかわることもあります。

### 淋病

男性の場合の症状は尿道に感染し、かゆみ、排尿時に粘りのある分泌物がでます。黄色のうみ、排尿時痛がある時は、さらに症状が進んだ状態です。

女性の場合の症状は、膣からのおりものが多くなる程度で症状は軽いですが、放置すると、卵管、卵巣、骨盤内に広がり、骨盤内感染症を引き起こします。

### 梅毒

最初に感染部位に痛みのない赤い腫れ物が出来ます。やがてそれは自然に消えますが、治療をしなければ、どんどん進行していき心臓や脳に障害を起こし、死に至ります。妊婦が感染していると、胎児に感染し先天性梅毒児となりますが、妊娠初期に診断され治療を受ければ母子感染を予防することができます。

### 性器ヘルペス

男性は性器に複数の細かい水泡ができ、痛みを伴います。女性は外陰部に複数の水泡ができ、後に潰瘍となり、痛みや発熱を伴います。排尿時に、熱感をともなうこともあります。

女性のヘルペス感染者は子宮頸癌になるリスクが高いといわれています、ヘルペス感染した母親から生まれた子どもは脳炎で死亡する危険があります。

### クラミジア

クラミジアは最も多い性感染症です。

女性より男性に症状が出やすい傾向があります。ペニスからの異常分泌液や頻尿、排尿痛があります。女性の場合は悪臭を伴うおりものや下腹部痛がみられます。男女ともに感染しているのに症状が出ないことがあります。

男女とも、放置すると不妊症になる可能性があります。

\*クラミジアは、たとえ一度治っても、何度も感染します。

### 尖圭（尖形）コンジローム

性器周辺や肛門周囲などにイボ状の小さい腫瘍（先の尖ったイボ）が多発します。

抗がん剤入り軟膏などを塗るだけで治る場合もありますが、電気メスで焼き切ったり、外科手術によって切除したりします。

### その他

その他に『細菌性膣炎』、『尿路感染症』、『膣トリコモナス症』、『ケジラミ症』、『B型肝炎』、『C型肝炎』などがあります。

### 子宮頸がん

子宮頸がんは20～30代の若い女性に急増しています。検診で早期発見可能ながんです。

子宮頸がんの原因は、性感染症のヒトパピローマウイルス（HPV）です。ヒトパピローマウイルス

スはごくありふれたウイルスで性交渉によって男性から女性へ、あるいは女性から男性へと感染していきます。女性の殆どが一度は感染する機会の多い感染症です。

女性の生涯罹患率は80%ともいわれています。そのうち一部は感染が持続し、子宮頸がんになります（感染者の約0.1%）。ヒトパピローマウイルスに感染してからがんになるまで平均10年以上の長い年月がかかります。子宮がん検診を受けることによって、子宮頸がんは早期に発見されます。

自治体では20歳以上の女性に対して子宮がん検診を実施しています。

詳しくは「しきゅうのおしらせ」を検索してください。

## 2. 性感染症は誰でも感染する可能性のある病気です！

日本では性感染症が増え続けています。病気によっては感染しても自覚症状が現れにくいという「無症状性」があり、それが蔓延しやすい原因であると考えられています。性行為をすれば誰でも感染する可能性があるのです。「自分だけは大丈夫」といった思い込みは通用しません。正しい知識を持って予防することが重要です。

## 3. 性感染症がどうして蔓延するのか？

若い人たちの性行動が活発化しています。

人々の性感染症に対する意識が不十分で、症状が出てでも無視している人がいます。

性感染症に感染していても、パートナーに隠す人が多くいます。

本人が気づきにくいような症状もあり、知らぬ間に人から人へと拡がります。

## 4. 性感染症を防ぐには

### コンドームを使うことです

#### ●ピルを飲んでいてもコンドームは必要？

ピルは、あくまでも避妊に有効な手段です。避妊と性感染症を予防することは、全く別なので、ピルを飲んでいても性感染症は予防できません。

#### ●相手がコンドームは嫌と言ったら？

お互いがコンドーム使用について同意できるまで、セックスは延期するのが一番です。要は、相手への思いやりが基本です。



## 5. あなたの将来を台無しにしない為に

- 性感染症の正しい知識を持ちましょう。
- 感染予防対策としてコンドームを正しく使いましょう。
- 疑わしい症状や相談したいことがある時は、すぐに受診しましょう。

### 悩んでいるより受診しよう

体調に異常を感じる、または何か気になることがあれば、早めに医療機関を受診して、検査をうけましょう。

STD ▶ 婦人科 泌尿器科 性病科 皮膚科 保健所

※受けたい検査を実施しているか、事前に電話で問い合わせましょう。  
医療機関によって違いがあります。

HIV/エイズ ▶ 保健所 病院 クリニック

保健所では無料・匿名で検査を受けることができます。  
病院、クリニックでは一般的に有料になります。